

# マレーシアの新しい美術教育課程の計画

—小学校視覚美術1学年の実施を事例として—

福田 隆真

On the Planning of New Curriculum of Art Education in Malaysia  
—A case of visual art in primary school 1—

FUKUDA Takamasa  
(Received January 10, 2012)

キーワード：マレーシア、美術教育、新教育課程、小学校

## はじめに

本稿は文部科学省科学研究費補助金に基づく研究の一環である。<sup>(1)</sup>本稿は現地調査で得られた情報をもとに報告する。現地調査は2011年10月に実施した。

現在、マレーシアは教育課程の改訂中である。改訂は年次進行で実施される計画である。小学校の教育課程が2010年から始まり、2016年に6学年まで改訂される。中等学校では2014年から開始され、2016年に小学校とともに完成予定である。

マレーシア教育省では、美術教育の教育課程の改訂について、現在、小学校1学年が完成し実施している。小学校1学年のいわゆる学習指導要領とその解説が完成され実施に移されている。以下では、Kurikulum Standard Sekolah Rendah (小学校教育課程), Dunia Seni Visual Tahun Satu, (視覚美術の世界 第1学年) と Kurikulum Standard Sekolah Rendah Panduan Pengajaran Dunia Seni Visual 1 (小学校教育課程教授指導書 視覚美術の世界第1学年) に基づいてその内容を述べる。<sup>(2)</sup>

## 1. 視覚美術の世界の目的・目標

2011年現在、小学校の美術教育の教科名が「視覚美術の世界」と改訂され実施されている。従前は「視覚美術教育」であった。ここでは教科の目的と目標を述べる。

### 1-1 目的

小学校における視覚美術の教科の目的は、視覚美術の基礎を促進することで、調和のある、批評的、創造的、生産的人間を育成することにある。教育課程の内容は、児童が神への感謝の気持ちを向上させ、自然環境の美と民族の文化遺産の美に敬意を払うことを強く援助する。また、国家の教育哲学の願望とふさわしい個人や家族、社会や国家の発展に寄与することができる。

### 1-2 目標

小学校視覚美術の教育課程によって、児童は以下のことができるようになる：

- 1 神の創造物の自然界に敬意を払う。
- 2 視覚美術の活動に、活動的に、批評的に、創造的に、楽しんで関与することができる。
- 3 五感を通して想像力を鋭敏にする。
- 4 造形の基礎を理解し、それらを使うことができる。

- 5 視覚美術の様々な活動において基礎的な能力を発展させる。
- 6 整理や配慮や安全を考慮してデザインすることを日常化する。
- 7 共同作業の価値、自信を持つこと、自分を鍛えること、責任感などを育む。
- 8 祖国の名人と文化を理解し敬意を払う。
- 9 視覚美術の作品制作において技術的な設備を使うことができる。
- 10 有益な余暇活動として視覚美術の活動に関与する。

## 2. 視覚美術の世界の重点事項と評価

### 2-1 重点事項

視覚美術の重点事項は以下の4点である：

- 1 活動的に観察すること
- 2 用具材料によって批評と創造の相互活動を行うこと
- 3 平易に視覚美術の鑑賞をする
- 4 日常生活の良いところを評価する

### 2-2 評価

視覚美術の教科の評価は試験や測定してできるものではなく、全体的に評価するものである。全体的な評価は、児童に認知的なことや精神が作用する身体運動や情緒に関わることを児童の理解に結び付けることができる。間接的に評価は思考力を伸ばす児童の行為に焦点を当てて重視することで児童に決心させることである。この教科のプログラムの効果は学校のレベル向上のために実行されている学校基礎業務評価を通じて計ることができる。

視覚美術の評価は次の4つの要素を含んでいる。学校に基づく評価、柔軟性のある評価、説明責任のある評価、公正な評価である。

## 3. 視覚美術の世界の内容構成

小学校の視覚美術の教育課程は4つの分野を含んでいる。絵画、デザイン、工作、伝統的工芸の理解の4つである。その4つの分野における内容構成は次の4つの内容標準に基づいて整理される。①審美の感受、②美術の応用、③創造的表現、④視覚美術の鑑賞の4つである。

### ①内容標準1：審美の感受

この内容標準は児童に知覚力を養い、神の創造した自然界と人工物と美術作品に存在する視覚言語（美術の要素と原理）を理解することができる。

### ②内容標準2：美術の応用

この内容標準は児童が美術の活動において、特定の媒体や技術を通して、知識、理解、視覚言語を活用することができる。

### ③内容標準3：創造的表現

この内容標準は、美術作品の制作において様々な資源、研究成果、技術を通してアイデアを表面化させる視覚言語の知識や理解を適応させる。

### ④内容標準4：視覚美術の鑑賞

この内容標準は、児童が視覚言語、美術史や文化史をガイドにして自分や友達作品を鑑賞することができる。児童はまた他の科学や、生活、経歴などの勉強によって視覚美術と関わる美術遺産の認識と価値付けることができる。

### 分野と活動内容

- ①絵画（25%）：描画、彩画、版画、コラージュ
- ②デザイン（25%）：意図的な印刷と描画、無意図的な吹き絵、散らし絵、垂らし絵
- ③工作（25%）：模型、折り紙
- ④伝統的工芸の理解（25%）」：アニヤマン、おもちゃの凧

### 3-1 絵画

その1（描画：自然を題材）：線を強調した描画の技法で乾いた媒体を使って絵を描く。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：線（形を作るための）、形（有機的、幾何学的）、色（青、黄、赤の3原色）  
造形原理：バランス（空間）、多様性（線）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：用具と材料（画用紙、鉛筆、色鉛筆）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：乾いた上に乾いた描画の技法
- ③創造的表現：児童は作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

その2（彩画：自然を題材）：色を強調して湿った媒体（水彩絵の具など）と彩色技法を使って絵を描く。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：線（スケッチのための直線と曲線）、形（有機的、幾何学的）、色（原色と二次色）  
造形原理：調和（色、形態と形）、統一（自然界の多様な要素）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：用具（水彩筆、パレット、古新聞）、材料（画用紙、水彩絵の具またはポスターカラーかテンペラ）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：乾いた上に濡らす技法。
- ③創造的表現：児童は作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

その3（版画：自然を題材）：形とテクスチュアを強調して湿った媒体と版画の技法を使って絵を描く。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：線（直線と曲線）、形（有機的）、テクスチュア（視覚的な）  
造形原理：調和（色、形態と形）、統一（自然界の多様な要素）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：用具（パレット、色絵筆）、材料（画用紙、花、水彩絵の具またはポスターカラーかテンペラ）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：乾いた上に濡らす技法。
- ③創造的表現：児童は作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

その4（コラージュ：自然物）：重なった紙片や継ぎはぎを強調して乾いた媒体（クレヨン等）とコラージュの技法を使って絵を描く。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：形（有機的、幾何学的）、色（自由）  
造形原理：調和（色、形態と形）、統一（自然界の多様な要素）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：用具（鋏）、材料（画用紙、糊、色紙）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：コラージュ。
- ③創造的表現：児童は作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

### 3-2 デザイン

その1（印刷：自然を題材）：印刷の技法でデザインする。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：形（有機的、幾何学的）、色（3原色と二次色）、テクスチャ（視覚的、触覚的）  
造形原理：調和（バランスのある繰り返しと配置）、統一感（自然界における）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：用具（筆、パレット、葉っぱ）、材料（画用紙、水彩絵の具またはポスターカラーかテンペラ）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：印刷（版で作る意図的なデザイン）
- ③創造的表現：児童は作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

その2（テーマのある描画：人工物）：描画の技法でデザインする。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：線（クロスした線）、形（幾何学的）、色（3原色と二次色）  
造形原理：コントラスト（色）、バランス（形態）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：用具、材料（画用紙、クレヨンまたはオイルパステル）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：描画（意図的なデザイン）
- ③創造的表現：児童は作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

その3（吹き絵と散らし絵：自然物）：吹き絵と散らし絵の技法でデザインする。

①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。

造形要素：色（3原色と二次色）、形（有機的）、テクスチャ（視覚的）

造形原理：コントラスト（色）、リズムと運動（無作為）、調和（形態）

②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。

様々な媒体を知り、明らかにする：用具（歯ブラシ、パレット、葉っぱ）、材料（画用紙水彩絵の具またはポスターカラーかテンペラ）

作品制作における媒体、技法の使い方を知る：吹き絵と散らし絵（無意図的なデザイン）

③創造的表現：児童は作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。

創造的に選択し操作する。

作品制作において造形要素と造形原理を使う。

④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の子どもの作品を鑑賞することができる。

制作した作品の展覧会をする。

口頭で自分の作品について話す。

自分と友達の子どもの作品に敬意を払う。

その4（垂らし絵：人工物）：垂らし絵の技法でデザインする。

①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。

造形要素：色（3原色と二次色）、テクスチャ（視覚的）

造形原理：バランス（色）、リズムと運動（無作為）

②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。

様々な媒体を知り、明らかにする：用具（筆、パレット）、材料（画用紙水彩絵の具またはポスターカラーかテンペラ）

作品制作における媒体、技法の使い方を知る：垂らし絵（無意図的なデザイン）

③創造的表現：児童は作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。

創造的に選択し操作する。

作品制作において造形要素と造形原理を使う。

④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の子どもの作品を鑑賞することができる。

制作した作品の展覧会をする。

口頭で自分の作品について話す。

自分と友達の子どもの作品に敬意を払う。

### 3-3 工作

その1（模型：人工物）：色紙や使用済みの材料で模型を作る。この分野では、立体、空間、構造、バランス、静止感などから児童の造形的感覚を発展させる。

①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。

造形要素：形（幾何学的）、立体（具体的な立体）、色（3原色と二次色）

造形原理：バランス（シンメトリ）

②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。

様々な媒体を知り、明らかにする：用具（鋏）、材料（色紙、糊、箱、油性ペン）

作品制作における媒体、技法の使い方を知る：工作の技法

③創造的表現：児童は立体の作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。

創造的に選択し操作する。

作品制作において造形要素と造形原理を使う。

④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の子どもの作品を鑑賞することができる。

制作した作品の展覧会をする。

口頭で自分の作品について話す。

自分と友達の子どもの作品に敬意を払う。

その2（折り紙：人工物）：折る技法と色紙を使って折り紙を作る。この分野ではバランスを通して児童の立体の造形感覚を発展させる。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：形（幾何学的）、立体（具体的な立体）、色（3原色と二次色）  
造形原理：バランス（シンメトリ）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：材料（A4の色紙、糊、油性ペン）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：折る技法
- ③創造的表現：児童は平面と立体の作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

### 3-4 伝統的工芸の理解

その1（アニヤマン：日用品）：代用の材料でアニヤマンを作る。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：線（平行と交差）、形（幾何学的）、テクスチャ（視覚的、触覚的）、色（3原色）  
造形原理：リズムと動き（普通のリズム）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：用具（鋏）、材料（A4の二色の色紙、糊）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：アニヤマンの技法
- ③創造的表現：児童は平面の作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

その2（凧：人工物）：凧のスケッチに色を塗る。

- ①審美の感受：児童は作品において視覚言語を知り、名前を知り理解することができる。  
造形要素：線（曲線）、形（有機的、幾何学的）、テクスチャ（視覚的）、色（3原色）  
造形原理：コントラスト（色）、バランス（シンメトリ）
- ②美術の応用：児童は作品制作において視覚言語の知識を応用することができる。  
様々な媒体を知り、明らかにする：材料（A4の凧のスケッチ、クレヨン）  
作品制作における媒体、技法の使い方を知る：描画の技法
- ③創造的表現：児童は平面の作品制作において視覚言語の知識、理解、能力を応用することができる。  
創造的に選択し操作する。  
作品制作において造形要素と造形原理を使う。
- ④視覚美術の鑑賞：児童は視覚言語をガイドとして自分と友達の作品を鑑賞することができる。  
制作した作品の展覧会をする。  
口頭で自分の作品について話す。  
自分と友達の作品に敬意を払う。

#### 4. まとめ

以上は2010年に発行された小学校1学年の美術教育に関わる教育課程である。前回のものは2002年に改訂されたものであり、<sup>(3)</sup> それと比較すると以下のようなことが考えられる。<sup>(4)</sup>

教材の内容は前回のものと大幅な変更はない。教材としては、絵画、デザイン、工作、伝統的工芸の理解の分野で視覚言語の習得を基本としている。1学年なのでオートマシズムを利用した造形遊びのような題材も含まれている。題材数は今回の改訂で精選され、減少している。伝統的な美術である工芸品についても前回同様に扱われているが、題材数は少なくなっている。教材の考え方では、一般的教材と特殊的教材の両方を取り入れており、一般的教材において、絵画やデザインの本質に触れている。また、デザイン、工作では日常的な題材を扱い、特殊的教材から一般的内容の触れるようにしている。さらに、国民文化の学習という点では、伝統的工芸を鑑賞の教材ではなく、表現の教材として取り扱い経験的に認識させようとしている。地域的な教材を重視している。

評価については、評価の観点を増やすことによって、児童の多面的な評価を目指している。学習過程や態度も学校裁量によって取り入れることが可能となってきた。学習の観点も4点を明記して総合的に題材を扱うようにしたことが特徴の一つである。

現在、マレーシアの教育課程の改革では小学校2学年の改訂に取り掛かっている。基本的には小学校の教育課程は1学年の考え方に基づいて、学年が上がっても教材は系統的に配列されるので考え方自体は変わらない。前回の改訂よりもさらに児童の学習過程を重視するように改訂が進められている。

#### 注

1 本研究は文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C)に基づくものである。研究課題：「アジア地域における美術教育課程の実質化調査研究」、代表者：福田隆眞、課題番号：20530826

2 Kementerian Pelajaran Malaysia, *Kurikulum Standard Sekolah Rendah Dunia Seni Visual Tahun Satu*, 2010及び、*Kurikulum standard Sekolah Rendah, Panduan Pengajaran Dunia Seni Visual Tahun 1*

3 Pusat Perkembangan Kurikulum Kementerian Pendidikan Malaysia, *Kurikulum Berspadu Sekolah Rendah Huraian Sukatan Pelajaran Pendidikan Seni Visual*, 2002

4 新しい教育課程の調査ではマレーシア教育省の次の方々の協力を得た。

- ・ Jagdeesh Kaur Gill: Penolong Pengarah Unit Bahasa Ingeris Bidang Bahasa dan Kesusasterian
- ・ Muhd Nizam Mohd Yusoff: Penolong Pengarah Unit Bahasa Ingeris Bidang Bahasa dan Kesusasterian